

令和6年度第1回「知事と一緒に生き生きトーク」発言要旨

- 1 テーマ：EV先進県岡山の実現に向けて
- 2 日時：令和6年4月19日（金）13:45～15:20
- 3 場所：岡山ガス株式会社新本社5階大ホール（岡山市中区桜橋1-1-1）
- 4 参加者：県の補助制度を活用して電気自動車（EV）や充電設備を導入した企業の方など5名

5 知事挨拶

- ・EVの利用を通じて発見した可能性、課題、EVの普及に必要な取組や有効なアイデアなどについて意見交換を行い、今後の県政を進める上での参考にしたい。有意義な意見交換となるよう、自由闊達な発言をお願いします。

6 発言内容等

【自己紹介・活動など】

- ・地域に根差したエネルギー企業として、脱炭素社会の実現に向け、二酸化炭素と水素からメタンをつくる技術を業界で進めており、当社でもEV導入のためのワンストップサービスや事業所への省エネ診断に取り組むとともに、去年は、県有施設における太陽光発電設備の設置を手掛けた。新社屋もZEB化によりエネルギー消費量を従来の2分の1程度に抑えている。
- ・地元の金融機関として、自身はSDGs推進や地方創生などの分野を担当しており、産学連携や創業支援、自治体の取り組む課題、脱炭素をテーマに、グループ会社とともに活動をしている。地域の脱炭素を重点戦略と位置付け、西栗倉村や瀬戸内市といった脱炭素の先行地域との連携のほか、企業に対しJクレジットなども提案している。DXや脱炭素支援など、社会的な課題に対する融資も積極的に進めていく。去年、県の支援も活用するなどして充電設備を11台導入した。
- ・当社はマンションなどの機械式駐車場の保守点検や改修工事などを手掛けており、そのためのマンション管理組合などでの合意形成支援やサービスの提供を行っている。実績がない後発企業ではあるが、必要な方に必要なことを届けることができればよいというぶれない考えを持ち、顧客に寄り添う会社として活動している。また、現在はEV充電設備をマンションなどの駐車場に設置するための支援も行っている。
- ・岡山市内で自家焙煎コーヒーの喫茶店を経営している。EVユーザーとなったきっかけは、友人が乗る電気自動車に興味を持ち、静粛性や加速のすごさに度肝を抜かれたことだ。軽EVの価格は普通の軽四より高いが、購入支援のキャンペーンや補助金により購入を決意した。EVのオフ会にも参加している。お店のお客さまにも見てもらったり試乗してもらったりしてEVの良さをPRしている。

- ・販売会社のEVスーパーバイザーとして、試乗会や展示会の企画、ウェブ広告など普及促進策を行っている。販売店での営業担当の際に、どうしたら売れるかを考え、EVに特化した勉強をしてEVにのめりこんだ。静かさとランニングコストの優位性に魅力を感じて、今はEVに乗っている。

【EV利用を通じて発見した可能性、課題など】

- ・社内に6台分の充電設備があり、うち2台は従業員向けに開放し、費用は会社持ちである。職員がEVに乗れるよう、まずは社内で取り組むことにした。
- ・EVのCO₂削減効果はそこまで大きくないかもしれないが、金融機関がEVを導入することが地域に与える影響や効果を考慮している。今後、社用車がリース期間満了を迎える際には、順次、EVを導入していきたい。
- ・新設マンションはともかく、既設マンションに充電設備を付けるとなると、公平性が重要であり、居住者らに傾聴する気持ちが大切だ。広くアンケートを取るなどして検討を進めており、中には補助金を提案して充電設備を設置できたケースもある。サービスを提供する際には、決まった型にはめないよう心掛けている。
- ・ケースとして、マンションの駐車区画がローテーションの場合は、一定の駐車区画に充電設備を設置することで居住者の支持を集めた。一方、区画が固定の場合は、公平性を担保するために全体に付けたケースもあった。
- ・以前、公共施設の充電設備を利用しようとしたとき故障中のものがあつた。古くなると故障することもやむを得ないが、そのまま放置しないでほしい。受電スポットのマップにも掲載されたままになる。公共施設にある充電設備は、土地勘のない人にも紹介しやすい。また、充電が時間制だと、軽EVは電圧の関係で割高になるので、従量課金制にしてはどうかと思う。まだまだ充電スポットも増やす必要がある。
- ・EVは災害時も有効で、蓄電池として利用しようと思っている人もいる。公用車や給水車もEVに替えると効果的だと思う。
- ・岡山県内の多くの市町村ではEV導入のための補助金制度があり、EVを普及させるためには有効だ。全国的にも岡山県は進んでいる。特に軽EVのみに補助金を出している市町村もあるが、普及台数を増やすには、軽自動車に絞っていく方がよいと思う。

【今後EVの普及に必要な取組、アイデア、将来展望など】

- ・EVの良さを知ってもらうことが大切であり、今年5月には、当社主催でEV試乗会を行うこととしており、まずは付き合いのある法人のほか、県に協力してもらい市町村にも声掛けした。次回以降開催する際には県民の方にもPRしたい。
- ・EVは蓄電池を備え、電気の平準化やレジリエンスの機能がある。そうした面から災害時の避難所にEVを届けると携帯電話の充電ができたりする。そのため会社とし

ても普及を進めている。

- E V自体の静粛性や加速の良さはすばらしい。揺れの少ないE Vに慣れてしまうと、E V以外の車に乗ると酔ってしまうくらいだ。E Vを買うときは価格が高いが、維持費はあまりかからない。軽E Vを岡山でつくっていることをもっとPRしたらよいと思う。
- E V購入者のほとんどが戸建ての人だ。自宅だと充電費用が安く、手軽に充電できる。例えばヨーロッパのように、近距離を基本としたE V使用で、家充電を基にした生活スタイルであれば、距離がある場合はE V以外をレンタルという選択肢もある。当社はそうした形でのサービスも行っている。
- 法人与個人ではアプローチの手法が違う。個人へは、まずE Vのメリットなどを知ってもらい普及啓発が大切であり、県もそうしたところにも予算を組んでほしい。一方、企業へはそうした点だけにスポットを当てるのではなく、レジリエンス機能や再生可能エネルギーとの関係なども含め、普及啓発を進めていくことが大切だと思う。

7 知事まとめ

先進的な取組を進めている企業と、E Vを早くに導入してその良さを広めていってくれている個人の方はとてもありがたい。一方で、意識の高い人だけが進めるのでは、なかなか取組は広がらない。いきなりは無理でも、一般の人が普通にE Vを選択肢として持ってもらうため、まず補助金などで取組を広げていくことになる。生産台数が増えればコストが下がり、採算がとれるようになる。E Vの普及の際の、車両と充電設備の関係は、ニワトリと卵の関係ではあるが、できるだけ早く普及が進むよう取り組んでいきたい。